

みみっちょ神社



日本でただ一つの「耳の病にご利益がある」神社で、正式には「耳守神社」といいます。でも、玉里では「みみっちょ神社」とよんでいます。みみっちょ神社は、小美玉市の栗又四ヶ（くりまたしか）にあります。建てられたのは、いまから1000年以上前と言われています。



祭られている神様も日本でただ一人のお姫様と言われています。神社が建てられたきっかけは、昔話になって言い伝えられています。

「耳千代姫（みみちよひめ）」伝説

おかしおかし、いまの栗又四ヶは平国香（たいらのくにか）（おいは平将門 たいらのまさかど）の孫である第3代常陸大掾繁盛の五男・五郎左衛門兼忠（後に飯塚兼忠 いくつか かねただ）によって治められていました。

兼忠には妻と可愛らしい娘がいました。娘は千代姫（ちよひめ）といい両親からとても大切に育てられていました。

しかし、千代姫は兼忠から話しかけられても返事をしないときがあります。千代姫は耳がきこえなかったのです。兼忠は千代姫が育つにつれ、娘の将来が心配になりました。また、千代姫も自分が他の人とちがうことに気付きはじめました。そこで、兼忠夫婦は娘のためとかくごを決めて、熊野の神様に断食をしながらお願いをしました。

それから数日すると千代姫がおどろいた表情で夫婦のもとにやってきて、なにかを伝えようと思いました。言葉にできませんでしたが、千代姫の耳はきこえるようになったのです。

千代姫の耳はだれよりも優れていました。そんな千代姫のことを里の人々は親しみを込めて「館の耳千代様」と呼んでいました。

千代姫が33歳を迎えると、ささいな病（かぜともいわれている）が次第に悪化して不治の病となってしまいました。死期を悟った千代姫は「自分が死んだらこの地に神社を建ててください。わたしはそこで里の人々を耳の病から守りたいのです」そう両親に伝えると、そのまま息を引き取

りました。

その後、千代姫の遺言どおりに千代姫愛用の鏡をご神体として神社が建てられ『耳守神社』と名付けられました。神社の神事は代々飯塚家が引き継いでいきました。

ただ、残念ながら500～600年後の1590年(天正18)に大掾氏は滅び、一族である飯塚氏も滅ぼされてしまいましたの

で、代々の神事は途絶えてしまいました。でも、飯塚氏に変わって地元の方々が神社を建て直し、姫の命日の9月9日に祭礼も行い、神社と神事を引き継いでいました。昭和58年(1983年)に神社を再建することができました。

耳守神社を「みみっちょ神社」ともいいます。「みみっちょ」は耳千代姫のことです

竹筒の絵馬

耳守神社の絵馬(えま)は竹を短く切って、願い事を書いたものです。絵馬の両端にひもを通して、それを社殿にかけます。「耳がよく通るように」という意味だそうです。「耳」は端のことだとも言われています。(パンの耳と同じような使い方です。)



参考 茨城見聞録 <https://ibamemo.com/2018/01/17/mimimori/>

まとめ

耳守神社が耳の病気の神様だということは知っていました。でも、耳守神社を「みみっちょ神社」という理由については初めて知りました。わたしたち中でその事を知っている人はあまりいません。また、飯塚氏が滅びた後、地元の人が神社を守ってきたことにもびっくりしました。耳千代姫の「人々を耳の病から守りたいという気持ち」が今も引き継がれていることはすごいと思いました。